

【働く(働きたい)人が働き続け、暮らし続けられる雇用の創出】

若年層の職住近接の生活を実現するため、企業誘致による雇用の創出、既存産業の支援による産業振興及び就労機会の確保で収入を安定させる。

施策の方向	課題・現状	考え方
○企業誘致・産業拠点整備	①地元で就職したい・就職できる企業が少ない。 ②誘致企業は製造業・運輸業が多く、非正規社員の雇用が多い。 ③学生の就職希望業種は事務系が多い。 ④中心市街地の商業集積地が伸び悩んでいるが、駅前へオフィスを誘致する助成制度がない。 ⑤誘致した企業に市外から通勤する社員がいる。 ⑥企業を集約して誘致するエリアがない。 ⑦農業振興を推進できる産業拠点施設がない。 ⑧農業後継者が減少し、耕作放棄地が増加している。 ⑨農産物のブランド化、6次化が進んでいない。	「本社機能事業所の誘致促進」
		「正社員の雇用促進」
		「中心市街地への企業立地支援」
		「従業員転入促進」
		「佐谷田地区新駅周辺開発」
		「池上ほ場整備 道の駅・食の拠点整備」
		「農地所有適格法人(企業)誘致」
		「妻沼茶豆等のブランド化」
○創業支援・就労支援	①結婚・出産を機に離職したが、スキルを生かし働きたい・創業したい女性がいる。 ②創業の相談先や情報がなく、創業を躊躇している起業家がいる。 ③取引先や開発等の情報がなく、事業縮小する中小企業がある。 ④後継者がいないことから廃業する中小企業がある。 ⑤子どもの預け先がなく、会社に復帰できない女性がいる。 ⑥労働者不足の中小企業がある。 ⑦スキルを持っていて働いていない女性がいる。 ⑧退職後、働きたい高齢者がいる。	「創業の促進・支援」
		「女性の起業支援」
		「女性版リターンワーク」
		「企業内保育所設置の促進」
		「中小企業ものづくり団体支援」
		「中小企業融資の促進」
		「シルバー人材センター就労の充実」
		「空き店舗活用の支援」
○商業振興によるにぎわい創出	①中心市街地の空洞化が進行している。 ②近隣市町の大型店舗へ市民の購買が流出している。 ③ネット販売が拡大している。 ④観光が、地域資源を活用した産業になっていない。	「商業核(大型店舗)の在り方」
		「観光による産業振興」

【子育て世代等にとって暮らしやすく魅力的なまちづくりの展開】

子育て世代が、自然豊かで地域資源を有する熊谷に転入・定住できる環境を整備する。

施策の方向	課題・現状	考え方
○住宅取得支援	①近隣市町や県南・東京へ転出している市民が多い。 ②三世代で協力して生活したい人がある。 ③住宅購入に係る費用負担が重い。	「若年層住宅購入に係る固定資産税等の課税免除」
		「三世代ふれあい家族住宅取得応援」
		「あっぱれ・天晴・スマートハウス補助」
		「勤労者住宅資金貸付利子補給」
○通勤支援	①東京等への通勤で職場に近いところへ転出している。	「通勤支援・公共交通の利便性の向上」
○転入支援(魅力的なまちづくり)	①立正大学の学生が就職とともに転出している。 ②農業大学卒業後、就農できない学生がいる。 ③農業に興味があり、スローライフを送りたい都心住民がいる。 ⑤季節ごとのイベント(祭・花火等)があり、スポーツ施設では様々なスポーツイベントが開催されている。 ⑥ラグビーワールドカップ2019が開催される。	「立正大学との連携」
		「農業大学校との連携」
		「農業による交流人口の増加」
		「観光による交流人口の増加」

【20代・30代の出産・子育てに関する希望の実現】

若年層が理想とする子どもの数を産み育てられる環境を整備し、子どもたちの成長を支援する。

施策の方向	課題・現状	考え方
○出産支援	①子どもに恵まれない夫婦がいる。 ②出産が高齢化している。 ③知り合いが近くにいない孤独な妊婦がいる。 ④出産に不安を感じている妊婦がいる。	「不妊治療費の経済的負担軽減」
		「妊婦から子育て卒業までの相談体制整備」
○子育て支援	①子育てに不安を感じている父母がいる。 ②2人目の子どもを産めるような環境が整っていない。 ③核家族化が進み、緊急時に子どもを預かってもらえない。 ④子育てに係る経済的負担が大きい。 ⑤仕事と子育てを両立したい。 ⑥学校の勉強をしっかりと理解してほしい。 ⑦学校で、丈夫な体、豊かな心を養ってほしい。 ⑧安心・安全な学校生活を送ってほしい。	「予防接種スケジュールアプリ導入」
		「ファミリーサポートセンター・病児等緊急サポートの充実」
		「保育所保護者負担金の多子軽減」
		「こども医療費無料化の拡大」
		「学童保育所の整備と充実」
		「知・徳・体で学力日本一」
		「いじめゼロの学校生活」
		「子どもの安全・防犯」